

(様式1)

令和7年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	校是「未来拓創」と校訓「自主・創造・敬愛」を規範とし、自由で伸びやかな校風のもと、豊かな人間性と社会性を伸長し、知・徳・体の調和のとれた個性あふれる有為な人材を育成する。
(2) 現状と課題	本校の農業科は、農業教育や寮教育を基盤とする専門教育の他、農業クラブ活動や部活動等に積極的に取り組むことができる恵まれた教育環境の中で、生徒はチャレンジ精神旺盛でたくましく活動している。また、県内唯一の農業科と普通科をもつ学校として、農業科と普通科の生徒が合同で運営・参加する学校行事を増やすことで融合を図っている。さらに、恵まれた教育資源を活かすことで、特色ある教育を実施している。 今年度は、さらに特色があり、魅力がある教育活動を実施し、中学生や保護者、地域の方々にとって魅力ある高校としての存在を高めたい。
(3) 重点目標	1. 学力の向上と自己教育力の育成 2. 個に応じた生徒指導の充実と保健・安全教育の実践 3. キャリア教育の実践と進路目標の実現 4. 特色ある普通科、魅力あふれる農業科教育、それぞれの充実と融合 5. 教職員の資質向上
(4) 結果の公表	本校ホームページに掲載し、保護者や学校関係者に公表し、一般に向けても広く公表する。

学校整理番号	31
学校名	青森県立三本木農業恵拓高等学校
全日制の課程	全日制

自己評価実施日	令和8年1月14日(水)
学校関係者評価実施日	令和8年1月26日(月)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
保護者代表1名、学識経験者(農業機関)1名、同窓会代表1名、学識経験者(高校教育)1名、地域農業経営者1名、地域住民1名の計6名。学校評議員会の場で評価していただいている。

番号	(5) 評価項目	自 己 評 価			(8) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(9) 次年度への課題と改善策
		(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) -イ 学校関係者からの意見・要望・評価等		
1	基礎学力の定着と学習習慣の確立	①「わかる」授業を実践するための指導法や評価法の工夫改善 ②検定・資格取得の推進 ③ICTの活用	①研究会の実施や教員個々の日々の努力により、授業改善が進んでいる。 ②英検や農業級位検定など、成果が見られた。 ③ICTを活用した授業が増えている。	ICTを取り入れ、生徒に興味関心を引き出すような授業を展開してほしい。 多様な生徒の理解に努め、学校全体で生徒の成長をサポートしてほしい。	多様な生徒が増え、これまでの授業方法では難しくなっている。特別支援やユニバーサルデザイン目線での授業展開をさらに充実していく必要がある。	
2	適切なアドバイスによる自己認識力・自己判断力の向上	①生徒の異変を早期に発見する ②生徒・保護者・教職員との連携、信頼関係の構築を図る ③生徒の自律を促し、安全意識を昂揚させる	①生徒の観察力向上が、問題に対する早期対応につながってきている。 ②親切丁寧な対応により、良い関係構築が増えている。 ③さらなる生徒自身の安全意識向上が必要である。	特別な支援を必要とする生徒が増えている様だが、担当者が一人で抱え込むことがない体制にしてほしい。 学校に関係する人力を活用しながら生徒の成長を支えてほしい。	特別支援を必要とする生徒をはじめ、多様な生徒が増えている。教職員の生徒把握能力と理解力をさらに高め、早期対応につなげる力を高める必要がある。	
3	自己理解とキャリアアップ	①個々の進路を早期明確化し、実現を図る ②体験活動による学びを通して、計画的な職業観や勤労観を育成する ③表現を豊かにする面接・小論文指導の実施	①進路説明会の早めの実施により、生徒の意識が高まり、結果につながった。 ②体験な活動が職業観や勤労観の向上につながっている。 ③じっくりと時間をかけ、成果を出した。	年代が異なる人たちとの地域交流やコミュニケーション機会を増やすなど、様々な体験活動を取り入れ、生徒の成長を支えてほしい。	これまで、各科毎の活動・交流が中心であった。今後、コミュニティ・スクール(学校運営協議会)の設置を進め、科にとらわれず、学校全体で成長できる体制の必要性がある。	
4	学科の特性を生かした学びと融合	①探究活動の学びによる、地域で活躍できる人材の育成 ②地域資源を活かした学びの実施	①地域や外部人材との交流や地域資源の積極的な活用により、生徒の地域理解や地域に対する興味関心が深まった。	普通科の探究活動や農業科のプロジェクト活動の成果発表会で生徒の成長を実感できた。	生徒の研究成果発表において、聞く態度があまり好ましくなかったという意見もあったので、改善に向けた対応をする。	
5	教職員の資質能力の向上	①服務規律の確保及び定期的な研修の実施 ②安全研修の実施 ③授業改善の研究会の実施 ④研修参加率の向上を図る	①職員会議での資料配付や具体例による指導で、今年度の交通違反や事故が大幅に減少した。 ②実習事故防止などの安全研修を重ね、教職員の安全意識がかなり高くなっている。 ③研修参加の呼びかけや実施日の配慮により、参加率の向上や授業力の向上が見られるが、さらに上を目指したい。	教職員の資質向上のための研修を続けて行ってほしい。教職員の持っている能力を発揮するためにも「心のケア」を大切にしていきたい。そのためにも「働き方改革」をすすめ、職場環境作りに努めてほしい。	これまでの働き方改革の対応を継続しながら、業務軽減をより進め、教職員の心身のゆとりを保つ職場環境づくりを進める。生徒と教職員が安全・安心な生活を送るために、さらに教職員の資質向上、服務規律の確保に努める。	

(10) 総括	<ul style="list-style-type: none"><li>・生徒の多様化により、問題行動も多様化してきた。これまでの指導法や体制を見直し、より充実した対応を図る必要がある。</li><li>・今年度も、相撲部のインターハイ出場を始め、相撲部・アーチェリー部・馬術部の東北大会優勝や文化部の写真部・吹奏楽部・書道部の各賞受賞などの活躍があった。さらなる学校全体の活性化のためにも、部活動の加入率を上げ、活躍している部活動に先導してもらいながら、学校全体の盛り上げを図ってきたい。</li><li>・今年度の卒業生進路状況は、一定の成果を挙げた。これを継続するために、来年度はさらに生徒に対する進路への早期意識づけや支援体制充実の必要がある。</li><li>・本校の特色ある教育について、学校関係者からいくつかの提言をいただいたので、次年度につながるよう、教育活動の改善と充実に努めていく。</li></ul>
---------	---